

INDEX

第32回通常総会 公示.....	2
第1号議案 2015年度事業報告および収支決算.....	3
第2号議案 2016年度事業計画案および収支予算案.....	5
第32回通常総会およびシンポジウムのご案内（最終報）.....	7
夏の合宿研究会の開催案内（第二報）.....	8
日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集.....	10
SIG参加登録・新規申請についてのお知らせ.....	11
SIG研究会の開催報告.....	11
SIG-03 教育・学習支援システムの開発・実践.....	11
SIG-04 教育の情報化.....	12
SIG-08 メディア・リテラシー，メディア教育.....	12
SIG-10 コンピテンシースタANDARDと能力評価手法の開発.....	13
SIG-11 情報教育.....	14
新入会員.....	15

第 32 回通常総会 公示

下記の要領で第 32 回通常総会を開催いたします。

正会員には、委任状のハガキを同封しております。当日欠席の場合は、委任状にご記入の上、記名捺印して 06 月 16 日（木）までに到着するよう、ご返送下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 日時 2016 年 06 月 18 日（土）12:30～

2. 会場

大阪マーチャンダイズ・マート（OMM）New Education Expo 2016 大阪会場

※JSET 総会会場は New Education Expo2016 大阪・受付でご案内します

大阪府大阪市中央区大手前 1-7-31 <http://www.omm.co.jp/>

●地下鉄谷町線天満橋駅 北出口 1，東出口

●京阪電車天満橋駅 東出口

いずれも、大阪マーチャンダイズ・マート B2F に連絡

3. 総会の議題

第 1 号議案 2015 年度（2015 年 04 月 01 日（水）～2016 年 03 月 31 日（木））

事業報告及び収支決算承認の件

第 2 号議案 2016 年度（2016 年 04 月 01 日（金）～2017 年 03 月 31 日（金））

事業計画案及び収支予算案承認の件

日本教育工学会 会長 山西潤一

2016 年 05 月 14 日

第 1 号議案 2015 年度事業報告および収支決算

2015 年度に実施した事業は以下のとおりである。（事業総額 29,293,982 円）

（1）機関誌等（12,261,444 円）

1. 「日本教育工学会論文誌」第 39 巻 1 号～4 号，増刊号（ショートレター号），および英文誌第 38 巻 1・2 号（合併号）を編集・刊行し，会員に配付した。（6,801,778 円）
和文誌の電子化，オープンアクセス化を進めた。（330,000 円）
2. 「ニューズレター」No.206～No.212 を刊行し，会員に配付した。（2,044,052 円）
3. 「日本教育工学会研究報告集」JSET15-2～JSET15-5，JSET16-1 を刊行し，申込者に配布した。（3,085,615 円）

（2）総会

日本教育工学会第 31 回通常総会を，東京工業大学で開催（2015 年 06 月 20 日（土））した。

（3）大会（9,171,187 円）

日本教育工学会第 31 回全国大会を，電気通信大学で開催（2015 年 09 月 21 日（月・祝）～23 日（水・祝））した。また，「大会講演論文集」を刊行し，申込者に配布した。

（4）研究会委員会（458,235 円）

次の研究会を開催した。なお，発表内容は，「日本教育工学会研究報告集」JSET15-2～JSET15-5，JSET16-1 とした。

- ① 「先進的デバイスを活用した学習支援システムの開発や実践」研究会
（2015 年 05 月 16 日（土）：広島大学）
- ② 「教師教育・教育の情報化」研究会
（2015 年 07 月 04 日（土）：北星学園大学）
- ③ 「学び方の学習とその支援」研究会
（2015 年 10 月 31 日（土）：岩手県立大学）
- ④ 「学校の教育力向上に資する実践研究」研究会
（2015 年 12 月 12 日（土）：新潟大学）
- ⑤ 「ICT を活用した学習支援環境・基盤」研究会
（2016 年 03 月 05 日（土）：香川大学）

（5）企画委員会（600,442 円）

企画委員会を開催し，次のシンポジウムおよび研修講座（合宿研究会）を開催した。

- a) シンポジウム（2015 年 06 月 20 日（土）：東京工業大学）
「21 世紀型学習活動のデザインと評価を考える」
「デジタル化時代の学びのイノベーション：時代が求める能力をどう育てるか」
- b) 研修講座
 - ① 第 79 回研修講座 夏の合宿研究会「ICT を用いたアクティブ・ラーニング」
（2015 年 07 月 18 日（土）～19 日（日）D-Labo 静岡）
 - ② 第 80 回研修講座 冬の合宿研究会「実践研究のデザイン
ー実践を研究に，研究を実践に生かすー」
（2016 年 02 月 20 日（土）～21 日（日）鳴門教育大学）
 - ③ 第 81 回研修講座 産学協同セミナー「デジタル教材・学習記録の規格標準化の動向と今後
教育工学の立場から学習記録データの活用を考える」
（2016 年 03 月 26 日（土）内田洋行 新川オフィス）

（6）学会ホームページの管理費（22,680 円）

会員だけでなく一般の人に学会情報を提供するために，学会のホームページを常時更新した。

（7）セミナーの開催（実践研究活性化・FD:364,351 円）

実践研究活性化セミナー等の企画，開催した。
高等教育 SIG において，FD セミナーを開催した。

（8）研究専門委員会（SIG）の運営（1,341,210 円）

研究専門分野での研究の活性化および人材育成を実施した。

（9）国際連携の促進（941,340 円）

海外の学協会との連携を促進するために，大会での国際セッションを開催した。

（10）学会の情報化対応システム開発（483,192 円）

学会の業務支援システムなどの開発をおこない，会員へのサービス向上を図った。

（11）国際対応の広報（94,284 円）

学会ホームページの英文化を進めた。

（12）「教育工学選書」の出版（2,985,233 円）

「教育工学選書」を出版し，会員へのサービス向上と教育工学分野への人材流入を図った。

（13）学会創立 30 周年記念事業〔継続分〕（570,384 円）

海外講師を招聘し，シンポジウムを開催した。

（14）2015 年度末（2016 年 03 月 31 日（木）） 会員総数：2,829 名

内訳：正会員 2,137 名，準会員 353 名，学生会員 307 名，名誉会員 14 名，維持会員 18 機関

2015年度 収支決算（自2015年04月01日～至2016年03月31日）

1.収入の部

科目	決算額	予算額	差額
1.会費（①～④の合計）	22,227,700	21,490,000	737,700
①正会員会費	18,073,200	18,000,000	73,200
②准会員会費	1,316,500	1,265,000	51,500
③学生会員会費	1,837,000	1,375,000	462,000
④維持会員会費	1,001,000	850,000	151,000
2.入会金	325,000	300,000	25,000
3.事業収入（①～④の合計）	6,383,953	8,350,000	△ 1,966,047
①論文別刷代	2,628,000	4,500,000	△ 1,872,000
②論文誌等販売	1,035,951	850,000	185,951
③研究報告集販売	2,720,002	3,000,000	△ 279,998
4.雑収入	519,123	1,050,000	△ 530,877
①企画委員会	228,053	300,000	△ 71,947
②セミナー	192,000	450,000	△ 258,000
③その他	99,070	300,000	△ 200,930
5.選書出版（積立金取り崩し）	0	2,541,155	△ 2,541,155
6.前年度からの繰越し	9,958,845	9,958,845	0
7.全国大会参加費等	12,881,000	12,000,000	881,000
収 入 合 計	52,295,621	55,690,000	△ 3,394,379

2.支出の部

科目	決算額	予算額	差額
1.管理費（①～⑧の合計）	14,421,340	15,740,000	△ 1,318,660
①役員等会議費	270,697	300,000	△ 29,303
②旅費交通費	3,196,722	3,500,000	△ 303,278
a.理事会等	1,817,886	2,000,000	△ 182,114
b.各委員会	1,378,836	1,500,000	△ 121,164
③通信運搬費	2,267,447	2,200,000	67,447
④消耗品費	118,727	200,000	△ 81,273
⑤複写経費	36,150	80,000	△ 43,850
⑥人件費・諸謝金	5,294,748	6,360,000	△ 1,065,252
⑦雑費	1,057,552	1,500,000	△ 442,448
⑧レンタル費	2,179,297	1,600,000	579,297
2.事業費（①～⑨の合計）	16,567,178	20,500,000	△ 3,932,822
①機関誌等	12,261,444	14,130,000	△ 1,868,556
a.論文誌	7,131,778	9,330,000	△ 2,198,222
b.ニューズレター	2,044,052	1,800,000	244,052
c.研究報告集	3,085,614	3,000,000	85,614
②ホームページ管理費	22,680	300,000	△ 277,320
③企画委員会	600,442	820,000	△ 219,558
④研究会委員会	458,235	450,000	8,235
⑤セミナー開催	364,351	150,000	214,351
⑥国際連携の促進	941,340	750,000	191,340
⑦情報化対応システム開発	483,192	800,000	△ 316,808
⑧SIG委員会	1,341,210	2,400,000	△ 1,058,790
⑨国際対応広報	94,284	700,000	△ 605,716
3.教育工学選書出版(学会負担分)	2,985,233	6,000,000	△ 3,014,767
4.全国大会運営経費	9,171,187	12,000,000	△ 2,828,813
5.学会創立30周年記念事業費	570,384	450,000	120,384
6.予備費	0	1,000,000	△ 1,000,000
7.次年度繰越金	8,580,299	0	8,580,299
支 出 合 計	52,295,621	55,690,000	△ 3,394,379

※収入項目あり

※参考：積立金

2015/3/31 定期預金総額 52,057,680 円（含 ゆうちょ銀行分 9,500,000円）
 銀行定期預金利息(0.020%) 合計 8,487 円（→ 銀行定期預金口座へ組み込み）
 2016/3/31 定期預金総額 52,066,167 円

※その他の利息

ゆうちょ銀行定期利息(0.028%) 合計 2,651 円（→ 雑収入へ組み込み）

第2号議案 2016年度事業計画案および収支予算案

2016年度に実施する事業計画は次のとおりである。（事業総額 36,020,000 円（次ページ予算案の表中「支出の部」：2.事業費，3.教育工学選書出版，4.全国大会運営経費事業の総額））

（1）機関誌等（12,373,000 円）

1. 「日本教育工学会論文誌」第40巻1号～4号，増刊号（ショートレター号），および英文誌第39巻を編集・刊行し，会員に配付する。 (6,433,000 円)
和文誌の電子化，オープンアクセス化を進める。 (330,000 円)
和文誌翻訳，校閲を行い英語版への投稿を進める。 (810,000 円)
2. 「ニューズレター」No.213～No.219を刊行し，会員に配付する。 (1,800,000 円)
3. 「日本教育工学会研究報告集」JSET16-2～JSET16-5, JSET17-1を刊行し，申込者に配布する。 (3,000,000 円)

（2）総会

日本教育工学会第32回通常総会を，大阪マーチャンダイズ・マート（OMM）で開催（2016年06月18日（土））する。

（3）大会（11,000,000 円）

日本教育工学会第32回全国大会を，大阪大学で開催（2016年09月17日（土）～19（月・祝））する。また，「大会講演論文集」を刊行し，申込者に配布する。

（4）研究会委員会（787,000 円）

次の研究会を開催する。なお，発表内容は，「日本教育工学会研究報告集」JSET16-2～JSET16-5, JSET17-1とする。

- ① 「高等教育における教育方法・FD/IR」研究会 (2016年05月21日（土）：大阪大学)
- ② 「教育の情報化」研究会 (2016年07月02日（土）：鳴門教育大学)
- ③ 「ICTを活用した学習環境」研究会 (2016年11月05日（土）：宮崎大学)
- ④ 「インストラクショナルデザイン」研究会 (2016年12月17日（土）：仁愛女子短期大学)
- ⑤ 「協働的な学びづくり」研究会 (2017年03月04日（土）：信州大学)

（5）企画委員会（1,500,000 円）

企画委員会を開催し，次のシンポジウムおよび研修講座（合宿研究会）を開催する。

- a) シンポジウム（2016年06月18日（土）：大阪マーチャンダイズ・マート）
「アジアと連携する教育工学研究」
「世界・アジアをつなぐICT教育の実践」
- b) 研修講座
 - ① 第82回研修講座 夏の合宿研究会「ラーニング・コモンズを活用した学びのデザイン」
 - ② 第83回研修講座 冬の合宿研究会（テーマ調整中）
 - ③ 第84回研修講座 産学協同セミナー（テーマ調整中）
- c) 海外の学会からの派遣の受け入れ等

（6）学会ホームページの管理費（50,000 円）

会員だけでなく一般の人に学会情報を提供するために，学会のホームページを常時更新する。

（7）セミナーの開催（実践研究活性化・FD:350,000 円）

実践研究活性化セミナー等の企画，開催を行う。
高等教育SIGにおいて，セミナーを開催する。

（8）研究専門委員会（SIG）の運営（1,750,000 円）

研究専門分野での研究の活性化および人材育成を行う。

（9）国際連携の促進（1,000,000 円）

海外の学協会との連携を促進する。大会での国際セッションを開催する。
JSETより国際連携組織が開催するセミナー等へ人材を派遣する。

（10）学会の情報化対応システム開発（500,000 円）

学会の業務支援システムなどの開発をおこない，会員へのサービス向上を図る。

（11）国際対応の広報（400,000 円）

学会ホームページを英文化し，英文パンフレットを制作する。

（12）学会活動PR企画（310,000 円）

学会の活動を社会に広く伝えるため，活動報告会，シンポジウムを企画する。

（13）「教育工学選書」の出版（6,000,000 円）

「教育工学選書」を出版し，会員へのサービス向上と教育工学分野への人材流入を図る。

2016 年度 収支予算案（自 2016 年 04 月 01 日～至 2017 年 03 月 31 日）

1. 収入の部

科目	前年度決算	予算額	備 考
1. 会費（①～④の合計）	22,227,700	21,490,000	
①正会員会費	18,073,200	18,000,000	9,000 円×2000 名
②准会員会費	1,316,500	1,265,000	5,500 円× 230 名
③学生会員会費	1,837,000	1,375,000	5,500 円× 250 名
④維持会員会費	1,001,000	850,000	50,000 円×17 口
2. 入会金	325,000	300,000	1,000 円× 300 名
3. 事業収入（①～④の合計）	6,383,953	7,350,000	
①論文別刷代	2,628,000	3,500,000	論文誌，英文誌
②論文誌等販売	1,035,951	850,000	委託販売を含む
③研究報告集販売	2,720,002	3,000,000	予約販売および現地販売
4. 雑収入	519,123	1,050,000	セミナー参加費，利息等
①企画委員会	228,053	300,000	
②セミナー	192,000	450,000	
③その他	99,070	300,000	
5. 選書出版	0	600,000	
6. 前年度からの繰越し	9,958,845	8,580,000	
7. 全国大会参加費等	12,881,000	11,000,000	大阪大学
8. 積立金取崩	0		
収 入 合 計	52,295,621	50,370,000	

2. 支出の部

科目	前年度決算	予算額	備 考
1. 管理費（①～⑧の合計）	14,421,340	14,050,000	
①役員等会議費	270,697	300,000	理事会等会議・会場費（大阪 OMM での理事会含む）
②旅費交通費	3,196,722	3,300,000	理事会，委員会交通費等
a. 理事会等	1,817,886	1,800,000	理事会交通費等
b. 各委員会	1,378,836	1,500,000	委員会交通費等
③通信運搬費	2,267,447	2,200,000	論文・連絡費等
④消耗品費	118,727	200,000	文房具，封筒印刷等
⑤複写経費	36,150	50,000	事務局コピー等
⑥学会事務局費	5,294,748	7,000,000	学会事務処理等（事務所，ファイルサーバ，メールサーバ等借料+人件費 3 名）
⑦雑費	1,057,552	1,000,000	クレジット手数料，その他
⑧レンタル費	2,179,297	0	JAPET&CEC サーバ代，事務所借料(学会事務局費に統合)
2. 事業費（①～⑩の合計）	16,567,178	19,020,000	
①機関誌等	12,261,444	12,373,000	
a. 論文誌	7,131,778	7,573,000	論文誌 5 回/英文誌 1 回（含む作業人件費），和文誌の電子化，オープンアクセス化 和文翻訳及び校閲費
b. ニュースレター	2,044,052	1,800,000	年 7 回（含む，印刷費，発送費，作業人件費）
c. 研究報告集	3,085,614	3,000,000	研究報告集印刷・配布
②ホームページ管理費	22,614	50,000	更新作業等
③企画委員会	600,442	1,500,000	6 月国際関係シンポジウム+合宿研究会等
④研究会委員会	448,235	787,000	研究会開催年 5 回
⑤セミナー開催	364,351	350,000	実践研究活性化・FD セミナー等
⑥国際連携の促進	941,340	1,000,000	海外の学協会との連携促進 海外派遣費補助，参加費等負担
⑦情報化対応システム開発	483,192	500,000	業務支援システム開発等
⑧SIG 委員会	1,341,210	1,750,000	11SIG SIG 全体経費等
⑨国際対応広報	94,284	400,000	ホームページの英文化，英文パンフレット
⑩学会活動 P R 企画	0	310,000	学会活動報告会及びシンポジウム企画等
3. 教育工学選書出版(学会負担分)	2,985,233	6,000,000	第 2 期の出版
4. 全国大会運営経費	9,171,187	11,000,000	大阪大学
5. 学会創立 30 周年記念事業費	570,384	-	
6. 予備費	0	300,000	新企画の準備
7. 次年度繰越金	8,580,299	0	
支 出 合 計	52,295,621	50,370,000	

第 32 回通常総会およびシンポジウムのご案内（最終報）

■日時 2016 年 06 月 18 日（土）10:00～16:00（受付 09:30 より）

■参加費 無料

■参加申込 <http://edu-expo.org/> よりお願いします。
シンポジウムに参加する場合は、事前に Web より申し込みをお願いします。

■会場 大阪マーチャンダイズ・マート <http://www.omm.co.jp/>（New Education Expo2016 大阪会場）

■10:00－12:20 ラウンドテーブル 「アジアと連携する教育工学研究」

ICT を活用した授業，規律正しい生活，学級という文化など，日本の教育経験を活用し，アジアの国々の教育水準を高めていくことは，グローバル時代の教育工学研究者に求められる重要な課題であるといえる．教育工学研究者はアジアの国の教育を改善していくためにどのような協働ができるのだろうか．本シンポジウムでは，カンボジア，タイ，フィリピンの三カ国から研究者を招き，それぞれの国の教育の現状を報告してもらい，今後日本の教育工学研究者とどのような協働ができるか，その可能性を探る．

司 会 久保田賢一（関西大学）

登壇者 文部科学省 井上睦子氏（文部科学省大臣官房国際課国際戦略企画室長）

「日本型教育の海外展開推進プロジェクトについて」

カンボジア オウム・ラビィ博士（国際関係学）（王立プノンペン大学 副学長）

フィリピン ファーディナンド・ピタゴン准教授（教育工学）

（フィリピン大学教育学部（デリマン校））

指定討論者

日本教育工学会 山西潤一（日本教育工学会会長・富山大学名誉教授）

■12:20－13:20 総会

第 1 号議案 事業報告及び収支決算承認の件

第 2 号議案 事業計画案及び収支予算案承認の件

■14:00－16:00 シンポジウム「アメリカ・アジアをつなぐ ICT 教育の実践」

本シンポジウムでは，アクティブ・ラーニング理論などアメリカから AECT 前会長 ロバート・ブランチ博士の講演を参考にしながら，アジアの次の連携を論議する．これまで海外の学校と協働して教育実践を行っている学校の発表を基に，国際交流学習の可能性と課題について論議する．また教育のグローバル化を図るための手立てを探る．

司 会 影戸 誠（日本福祉大学）

講演 「ICT 活用と学習理論」 ロバート・ブランチ博士（AECT 前会長）

登壇者 「グローバル・ハイスクール，WYM 参加校」

浅川行弘教諭（立命館大学中学高等学校（SGH））

岩見理華教諭（神戸大学附属中等教育学校（SGH））

佐藤慎一教授（国際連携プロジェクト WYM 幹事校 日本福祉大学）

指定討論者

文部科学省 井上睦子 （大臣官房国際課国際戦略企画室長）

日本教育工学会 山西潤一 （日本教育工学会会長・富山大学名誉教授）

カンボジア オウム・ラビィ博士（王立プノンペン大学 副学長）

フィリピン ファーディナンド・ピタゴン准教授

（フィリピン大学教育学部（デリマン校））

夏の合宿研究会の開催案内（第二報）

■テーマ：

ラーニング・コモンズを活用した学びのデザイン

■趣旨

大学を中心にラーニング・コモンズの整備が進み、アクティブ・ラーニングが実践されています。そこで、今回の合宿研究会では、これからの学習をより良いものにしていくため、ラーニング・コモンズの間を活用したアクティブ・ラーニングをテーマとしました。

当日は、授業利用を前提に設計されたラーニング・コモンズを会場とし、ラーニング・コモンズの歴史、実践例、運用のための取組みを共有した後、ワークショップ形式でこれからの学びのデザインを検討する予定です。

学習者の主体的な学びをサポートする環境設計やアクティブ・ラーニングの実践は、小・中・高等学校でも大きな課題となってきました。大学関係者だけでなく、小・中・高校の教員、図書館や設備を扱う職員など、様々な職種の方のご参加をお待ちしています。

■日程 2016年08月27日（土）13:00～08月28日（日）12:30

※宿泊先は、参加者各自でご手配ください。

■会場 九州工業大学 飯塚キャンパス MILAiS

（〒820-8502 福岡県飯塚市川津 680-4）

<http://www.iizuka.kyutech.ac.jp/public/access/>

※公共交通機関をご利用ください。

■合宿研究会参加費（予定） 3000 円

※本合宿研究会では参加費を事前にクレジットカードか郵便局からの払込みでお支払い頂きます。

※合宿研究会参加費の領収書は、合宿研究会当日にお渡しいたします。

※準備の都合上、参加申し込み後のキャンセル及び参加費の返金はできかねます。ご了承ください。

■募集期間 2016年06月10日（金）～2016年07月末

※申込者多数の場合は、早期に募集を締め切る可能性があります。

■合宿研究会スケジュール（予定）

08月27日（土）

13:00～13:30 合宿研究会の趣旨説明

13:30～14:30 講演1：演題未定

講演者 小山憲司氏（中央大学文学部 教授）

14:30～15:30 講演2：九州工業大学のラーニング・コモンズ MILAiS・ミライズ

講演者 近藤秀樹氏（九州工業大学 学習教育センター 助教）

15:45～16:45 講演3：MILAiSを使った授業実践

講演者 安永卓生氏（九州工業大学 情報工学研究院生命情報工学研究系 教授）

16:45～17:30 グループディスカッション

ファシリテーター 山田雅之氏（日本教育大学院大学 准教授）

18:30～ 情報交換会（※1 任意参加）

08 月 28 日（日）

10:00～10:10 アナウンス

10:10～11:10 講演：持続可能なラーニング・コモンズの運用をめざして：

担当者ネットワークの構築と実践

講演者 村上正行氏（京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター 教授）

11:25～12:00 全体ディスカッション

ファシリテーター 山田雅之氏（日本教育大学院大学 准教授）

コメンテーター

近藤秀樹氏（日本教育大学院大学 准教授），

安永卓生氏（九州工業大学 情報工学研究院生命情報工学研究系 教授）

12:00～12:30 まとめ

■その他

※研究会 1 日目終了後、情報交換会を開催します。御都合のつく方はこちらも御参加ください。

＜情報交換会 概要＞

・日時：08 月 27 日（土）18:30～20:30

・情報交換会参加費（予定）：4,000 円

※情報交換会の参加費も事前入金をお願いしております。参加を希望される方は、合宿研究会の参加費と合わせて入金をお願いいたします。

※情報交換会参加費の領収書は、合宿研究会当日にお渡しいたします。

■問い合わせ先

岡山大学 大崎理乃 ohsaki@okayama-u.ac.jp

日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集

「特集：教育情報化時代のラーニング・アナリティクス」

e ポートフォリオ, LMS (学習管理システム), MOOC (大規模公開オンライン講座) など ICT を活用した教育環境が, 初等中等教育や高等教育の場を通して整備され, 学習活動・学習成果, それに伴うコミュニケーション過程などがデジタルデータとして蓄積されつつあります. ICT によって蓄積されたデータを分析することで, 個々の学習者のモニタリングや学習プロセスを把握するだけでなく, それをもとに多角的な学習支援や教育改善を可能とする「ラーニング・アナリティクス」研究が注目されます. そこで本特集号では, 様々な教育・学習分野において, ビッグデータを対象としたデータマイニングから, 個々の授業を対象にした学習データ分析まで, 広義のラーニング・アナリティクスに関する研究を募集します. 「ラーニング・アナリティクス」研究は, まだ始まったばかりの分野であり, 発展・普及はこれからです. 初等中等教育の現職教員, 大学院生, 若手研究者の方々もふるってご投稿ください.

1. 対象分野

下記に本特集号で募集する論文テーマについて例示しますが, 下記に限らず, 幼児教育, 初等中等教育, 高等教育, 企業内人材育成や生涯教育など, さまざまな分野で行われるラーニング・アナリティクス研究に関係する論文を広く募集します.

- (1) 初等中等教育における ICT 活用授業に関するラーニング・アナリティクス
- (2) 映像教材の視聴ログ・操作ログに基づいた効果分析・教材の改善
- (3) e ポートフォリオに蓄積された学習成果におけるテキストマイニングの活用
- (4) デジタル絵本・教科書・教材の操作ログを活用したラーニング・アナリティクス
- (5) ラーニング・アナリティクスに基づいた, 新たな学習理論, 評価法や分析フレームワークの提案
- (6) センサーネットワーク, ウェアラブルデバイスにて収集した学習者の動作データによるラーニング・アナリティクス
- (7) CSCL における, 学習ログを活用したインタラクション分析
- (8) ラーニング・アナリティクスを活用した授業やデジタル教材のリデザイン
- (9) ラーニング・アナリティクスを活用したインスティテューショナル・リサーチ, 組織研究
- (10) LMS 等 ICT によって蓄積されたログを活用した学習支援システムの開発
- (11) GPS など地理データを活用したインフォーマル学習支援 など

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に, 「論文」「システム開発論文」「教育実践研究論文」「資料」「寄書」を募集します. それぞれの論文種別については, 投稿規定をご覧ください. なお, 「ラーニング・アナリティクス」研究を先導し, 展開していくのは, 日本教育工学会です. その意味で, 既に結果を得た「論文」以外の種別の論文, 概念提唱や構想提案をまとめた論文, などの投稿についても優れたものはできるだけ採択していく予定です.

論文の査読は, 通常の論文誌の場合と同じです. ただし, 査読は2回限りとし, 編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません. 「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させて「論文」として投稿することも可能ですが, 単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので, ご注意ください. なお, 本特集号へ投稿された論文が特集号編集委員会にて対象分野外と判断された場合には, 一般論文として扱うこととなりますので, あらかじめご了承ください.

3. 論文投稿締め切り日 (2017 年 11 月発行予定)

投稿原稿を 02 月 02 日 (木) までに電子投稿をお願いします. ただし, 02 月 09 日 (木) までは, 論文を改訂することができます. 締め切りの延長は行わない方針です.

投稿原稿提出締め切り (電子投稿): 2017 年 02 月 02 日 (木)

最終原稿提出締め切り (電子投稿): 2017 年 02 月 09 日 (木)

4. 論文投稿の仕方

原稿は, 「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>) に従って執筆し, 学会ホームページの会員専用 Web サイトから電子投稿して下さい. 郵送による投稿は受け付けておりません.

5. 問い合わせ先

日本教育工学会事務局

Tel/Fax : 03-5549-2263

電子メール : tokushu2017@jset.gr.jp

6. 特集号編集委員会 (検討中)

SIG 参加登録・新規申請についてのお知らせ

・SIG への参加の仕方

学会ホームページの「会員専用ページ」にログインし、メニューにある「SIG 参加申請」を選んで、参加をチェックすると、SIG のメーリングリストに参加することができます。メーリングリストでは、SIG の活動についての広報、会員同士の情報共有などができます。また、複数の SIG に参加することもできます。

・SIG の新規申請の方法・条件

SIG の新規申請の締切は毎年 02 月 15 日となります。今年度から SIG の新規申請の条件として、下記の条件を設定しました。今年度の全国大会のワークショップの締切は 06 月 23 日 (木) 17:00 です。

- 一、発起人となる少なくとも 1 名については、全国大会において申請する新規 SIG 関連のワークショップを開催していること。
- 一、発起人となる少なくとも 3 名については、日本教育工学会に 5 年以上所属している正会員であること。
- 一、発起人となる少なくとも 3 名については、それぞれ全国大会もしくは研究会で 5 回以上発表を行っていること。
- 一、発起人のうち少なくとも 1 名が、日本教育工学会誌（ショートレター特集号を含む）に論文が掲載されていること。

SIG 研究会の開催報告

SIG-03 教育・学習支援システムの開発・実践

第 4 回 SIG 研究会

●日時・会場：2016 年 03 月 19 日（土）～ 03 月 21 日（月・祝）、
別府湾ロイヤルホテル（大分県）、参加者数：20 名

●プログラム：

▽03 月 19 日（土）

ディスカッション：各参加者の研究発表／研究相談／システムデモ

ナイトセッション：教育・学習支援システム研究の発展に向けて

▽03 月 20 日（日）

フィールドワーク：研究着想および発想支援

ディスカッション：各参加者の研究発表／研究相談／システムデモ

ナイトセッション：アイトラッキングおよび生体計測と教育・学習支援応用（招待講演）

▽03 月 21 日（月・祝）

ディスカッション：各参加者の研究発表／研究相談／システムデモ

第 4 回研究会は、参加者が開発したシステムを持ち寄ってのデモやディスカッション、データの収集や分析および実践への展開に関する議論をテーマとして開催しました。研究構想をどう具体化するかという段階にあるトピックも含めて、一人あたり 30 分程度で研究発表または研究相談の説明と議論を行いました。

初日のナイトセッションでは、教育・学習支援システムをテーマとする研究者が、研究成果と研究業績を積み上げて競争的資金を獲得し、研究を発展させるサイクルをどのように回していくかといった点に関する講演と質疑の時間を取り、議論が深夜まで白熱しました。

2 日目には「モバイルラーニングセッション」と題して移動し、研究着想および発想支援のためのフィールドワークを行いました。また、ナイトセッションではアイトラッキングおよび生体計測と教育・学習支援に関する招待講演として、National Taiwan Normal University の Prof. Hong-Fa Ho にアイトラッキングシステムの開発事例を紹介いただき、関連する話題について意見交換を行いました。近年、各種センサを用いた生体計測をどのように学習支援に生かすかという取り組みが多く報告されていますが、その研究の発展にはまだまだ課題も多いため、SIG で取り組んでいきたいテーマの一つであると考えています。

今回も参加者全員が自分の研究の内容や構想について発表し、デモの体験や議論の時間を十分に取ることができました。次回の研究会は、今夏に SIG-05「ゲーム学習・オープンエデュケーション」との共催を計画していますので、参加をご検討いただけると幸いです。担当：江木啓訓（電気通信大学）

SIG 研究会の開催報告 SIG-04 教育の情報化

第4回ワークショップ

●月日・会場：2016年03月06日（日），和歌山大学，参加者数：25名

●テーマ：「情報モラル教育の夢を語る～未来を拓く新しいアプローチ～」

●プログラム：

ワークショップ①：褒める指導を目指す体験型情報モラル授業づくり 豊田充崇（和歌山大学）

ワークショップ②：協働学習で使える情報モラル教材をデザインしてみよう 藤川大佑（千葉大学）

話題提供：浅子秀樹（LINE株式会社）・高橋誠（LINE株式会社）

「情報モラル教育の夢を語る～未来を拓く新しいアプローチ～」と題して、和歌山大学においてSIG-04のワークショップを実施しました。

ワークショップ①：「褒める指導を目指す体験型情報モラル授業づくり」は、豊田充崇代表（和歌山大学）が担当しました。情報モラル教育はどちらかというと注意喚起・禁止事項の周知的な意味合いが多いと思われますが、やはり、子どもたちを褒める場面やお互いが認め合う場面等を含めた授業設計が必要ではないでしょうか。他者と関わり、考え方や感覚的な相違を体験・実感できるような情報モラル授業とはなにか、学校全体で取り組める普及型授業・日常化を目指した授業を目指して議論しました。ワークショップでは大がかりな装置を必要としないどの教室でも導入できる印刷物だけで実施できる学習を体験することができました。

ワークショップ②：「協働学習で使える情報モラル教材をデザインしてみよう」は、藤川大祐会員（千葉大学）が担当しました。スマートフォンの普及によって青少年のネット利用の状況は一変し、長時間利用、ネットいじめ、犯罪被害等の問題が深刻化しており、こうした状況に対応した情報モラル教材が求められています。最新の動画教材やアプリ教材等をふまえ、教室で子どもたちが協働して学べる情報モラル教材をデザインすることを通して、情報モラル教育のあり方を検討しました。LINE株式会社より浅子秀樹マネージャー、高橋誠公共政策担当にもワークショップの話題提供を頂く事ができました。その後、実際にそれぞれの立場で実現したい情報モラル教育についてデザインし、保護者・児童生徒と一緒に学ぶ活動など様々なアイデアが生まれ、それぞれの立場で取り組めることを出しました。

また、平成28年度の活動についても議論し、資質・能力としての情報活用能力の育成と評価、1人1台タブレット環境における実践的研究、Get Active: Reimagining Learning Spaces for Student Successの翻訳など意見が出、今後MLやFacebookで会員の意見を集約しつつ方向性を議論することになりました。なお、07月02日（土）に鳴門教育大学で開催される教育工学会研究会は本SIGとの連携開催とし、関連する研究報告を募集します。詳しくは研究会委員会の頁をご参照下さい。

担当：後藤康志（新潟大学）

SIG 研究会の開催報告 SIG-08 メディア・リテラシー、メディア教育

第3回研究会

●日時・会場：2016年03月28日（月）14:00～17:00，日本体育大学，参加者数：35名

●テーマ：西オーストラリア州におけるメディア・リテラシー教育-カリキュラムとルーブリック評価

●プログラム：

趣旨説明・解説 講師：中村純子（東京学芸大学），和田正人（東京学芸大学）

講演 講師：Julie Keane

2016年03月28日（月）に日本体育大学で第3回研究会が開催され、35名の方に参加していただくことができました。今回の研究会のテーマは、『西オーストラリア州におけるメディア・リテラシー教育-カリキュラムとルーブリック評価-』で、学校教育カリキュラムにメディア・リテラシーを先進的に取り入れた地域である西オーストラリア州の取り組みについて学ぶ会となりました。

前半では、中村純子先生（東京学芸大学）、和田正人先生（東京学芸大学）から「西オーストラリア州メディア・リテラシー教育概要」という演題で講演をいただきました。ここでは、西オーストラリア州のメディア・リテラシー教育の歴史、メディア・リテラシーに関わる教科及び到達度評価の観点、我が国の国語教育における現状と課題、平成30年版学習指導要領改訂の方向性などについてご説明いた

だきました。1974年に高校2・3年生を対象とした「メディア・スタディーズ」科が始まって以降の西オーストラリア州のメディア・リテラシー教育の取り組みについて詳しく学ぶことができました。

後半では、中学校や高等学校でメディア科や英語科、ドラマ科を担当した後、エディス・コーワン大学の教育学部でメディア科の教師教育にあたり、西オーストラリア州のカリキュラム委員会でメディア制作と分析科のシラバス作成に携わった Julie Keane 先生をお招きし、デジタル・メディア情報を取り入れた近年のカリキュラム動向と、授業実践の実際とルーブリック評価について講演をいただきました。西オーストラリア州及びオーストラリアのカリキュラムにおけるメディア教育の現状と歴史、メディア芸術とリテラシー、就学前～中学校までのアート科のカリキュラム、高校生の WACE シラバスなどについて詳しくご説明いただきました。その後、教師教育や評価の方法・観点、教科書に対する考え方などについて質疑が行われました。

今回の研究会を通じて、メディア・リテラシー教育を実践していく上で、Keane 先生が講演の最後におっしゃった「生徒たちが学ぶことに惹きつけられる、生徒たちが学ぶことに夢中になるプログラムを開発すること」が重要であることを強く感じさせられました。今後は、このことを強く意識しながら研究を進めていきたいと考えています。

担当：奥泉 香（日本体育大学）

SIG 研究会の開催報告

SIG-10 コンピテンシースタンドードと能力評価手法の開発

第3回 SIG 研究会

●月日・会場：2016年03月24日（木）、10:00～12:00、

CIC（キャンパスイノベーションセンター）東京（東京工業大学田町キャンパス）

●内容：第1回 SIG 研究会（JSET 全国大会 SIG セッション）「ゲーミング教材を用いた能力開発と評価」や第2回 SIG 研究会「シミュレーション&ゲーミング手法をベースとした能力評価規準とその評価方法開発」などで紹介したゲーミング教材の体験セッション（参加者数：10名）と、体験セッションで提供したゲーミング教材の開発・実践等に関する研究発表会（参加者数：21名）

第3回研究会は、これまでの活動で紹介してきたゲーミング教材を実際に体験していただき、意見交換する機会を設定しました。いずれも、Matsuda, T. (2015) Design Framework of Gaming Materials to Cultivate Problem-solving Abilities: Differences and Commonalities among STEM Educations, The 13th Hawaii International Conference on Education, pp. 2147-2159 に基づいて開発されたもので、数学科、理科、情報科、工業科など、教科も多彩ですが、同じ数学科でも、課題学習、学び直しや自己学習、キャリア教育との連携など、目的や文脈も多彩です。異なる教科や文脈に「問題解決の縦糸・横糸モデル」という統一的な枠組みを適用することで、汎用的な資質・能力を育成・評価することを目指しています。2015年度までは、発起人グループがこれまでに行ってきた研究成果の情報提供や、関連する他学会との情報交換、さらにそれらに基づく議論などを中心に展開してきました。2016年度は、SIGに参加されている方々の異なる取り組みについても情報提供頂き、切磋琢磨していくことを目指していきます。

当日紹介した教材については、3月のJSET研究会で以下のような発表があります。当日も、教材の実践に協力して頂いた東工大附属高校の先生方とSIG研究会参加者を対象に、発表会が開催されました。

- ・小川ほか、情報科で育成すべき資質・能力のモデル化とそれに対応したゲーミング教材テンプレート
- ・森脇ほか、高校数学「課題学習」の指導の体系化を意図した教育実践研究
- ・沼崎ほか、数学教育にキャリア教育を融合させた「事業計画立案」ゲーミング教材の開発と評価
- ・合田ほか、問題解決に活用可能な高校「データ分析」の知識及び見方・考え方のモデル化と教材開発

今後についてですが、第4回研究会は、既に05月07日（土）の午後、江戸川大学にて開催しました。その次の予定は、JSET 全国大会でのSIGセッションになります（前号の大会案内をご覧ください）。その後の年度内の予定は、11月12日（土）～13日（日）に名古屋工業大学で開催予定の日本シミュレーション&ゲーミング学会秋期全国大会との連携「(仮題)シミュレーション&ゲーミングと教育工学研究の共通基盤」や、3月後半にCIC東京での研究会「(仮題)能力評価規準とその評価方法開発の中間成果と課題」を計画しています。詳細が決まり次第、MLでご案内しますので、ぜひMLにご登録頂ければと思います。

担当：松田稔樹（東京工業大学）

SIG 研究会の開催報告 SIG-11 情報教育

第4回情報教育研究会

●日時・会場：2016年03月24日（木），10:00～18:00，山形大学 小白川キャンパス

●テーマ：ヒューマノイドロボット活用のアイデアソン・ハッカソン

●プログラム：

- ・ヒューマノイドロボットと人が共生するために必要な情報教育について 加納寛子（山形大学）
- ・Palmi にできること実演 一階武史（DMM.com ロボット事業部）
- ・ヒューマノイドロボット活用のアイデアソン&昼食
- ・ヒューマノイドロボット活用のハッカソンに向けた Palmi アプリケーション開発研修
一階武史（DMM.com ロボット事業部）
- ・人工知能アプリケーション開発に必要な能力と，
その能力を育成するための具体的な情報教育カリキュラムに関する議論

販売員等の第3次産業に従事する人々の仕事がヒューマノイドロボットに置き換わる時代に登場する仕事は何か，そのためにはどんな教育が必要なのか．ヒューマノイドロボット活用のアイデアソン・ハッカソンを通して，AI時代に必要な教育とカリキュラムについて議論した．加納寛子（山形大学）は，これまで映画や小説はこれまで多数描かれてきたヒューマノイドロボットが街を行き交う時代に必要とされるに備えて，AI機器に置き換わる仕事と置き変わらない仕事に分類し，置き変わらない仕事に必要な知識を身につけられる教育に転換していく必要がある，ヒューマノイドロボットへの期待←→非期待，実現←→非実現の軸により，期待され実現されることは何か，期待されないが実現するであろうことは何か，期待されていないし実現しないことは何か，期待しているが実現していないことは何か，形態素解析による結果を構図で示した．一階武史氏（DMM.com ロボット事業部）からは，人工知能を搭載した Palmi の様々な実演や，ショッピングモールでの活用事例などを紹介していただき，実際にプログラミングソフトウェアを用いた Palmi アプリケーション開発研修を実施していただいた．時間の関係で，昼食を取りながらの実施となったアイデアソンでは，雪かきロボットや介護ロボット，看護ロボット，顔色や表情で病気を発見する健康診断ロボット，旅行中に時間ごとにペットにえさをやり，犬の散歩などしてくれるロボット，片付けロボットなど，様々なアイデアが検討された．情報教育関係者のみでなく，医療関係者や行政，企業の方など様々な分野の方にお集まりいただいた．医療現場や建築，ものづくり関連の企業等，幅広い領域で，人工知能への関心が高まっており，人工知能関連の教育へ大きな期待が寄せられていることが示唆された．
担当：加納寛子（山形大学）

新入会員

(2016年03月10日～2016年04月25日)

55名(正会員:25名, 准会員:8名, 学生会員:22名)

■ 正会員 (25名)

小林雅裕 (株式会社アイキューブ)
菊内由貴 (独立行政法人
国立病院機構四国がんセンター)
市村勝己 (独立行政法人国立高等専門
学校機構長岡工業高等専門学校)
中田英利子 (神戸女学院大学)
落合一郎 (山口県立山口博物館)
濱口武仁 (鹿児島県立大島高等学校)
小西正恵 (津田塾大学)
木村明憲
(京都教育大学附属桃山小学校)
宗村広昭 (島根大学)
小山田隆信 (大月短期大学)
倉田和己 (減災連携研究センター)
堀江真弓 (岐阜大学)
丸山和昭 (名古屋大学)
平野智紀 (株式会社内田洋行)
中前雅美 (京都保健衛生専門学校)
佐藤大祐 (新潟大学)
梶井大輔 (プール学院大学)
齊藤光俊 (新潟経営大学)
長友紀子 (奈良教育大学附属中学校)
平中宏典 (福島大学)
李 在鎬 (早稲田大学大学院)
桜井 良 (立命館大学)
斉藤慎一 (東京女子大学)
田中瑞穂
(早稲田ライフ&ラーニング研究会)
戸田登美子
(ベルランド看護助産専門学校)

■ 准会員 (8名)

大津嘉代 (早稲田大学)
神菌洋子 (国際医療福祉大学)
飯田寛志 (静岡県総合教育センター)
阪脇孝子 (早稲田大学教育学部)
村上貴弘 (株式会社クリア・アライド・
コンサルティング)
池田まさみ (十文字学園女子大学)
中岡晃也 (タイワビト)
本多 博 (長崎大学大学院)

■ 学生会員 (22名)

小原寿美 (広島大学大学院)
切通優希 (熊本県立大学大学院)
藤崎さなえ (東北大学大学院)
李そんひ (東北大学大学院)
小田郁予 (東京大学大学院)
小池佳世 (早稲田大学, 人間科学部)
関 陽介 (徳島大学)
石原佳樹 (東京福祉大学大学院)
飯尾 健 (京都大学大学院)
庄司大地 (東京学芸大学大学院)
寺元健太郎 (東京学芸大学, 教育学部)
張 曉紅 (関西大学大学院)
田尻圭佑 (早稲田大学大学院)
森戸優多 (立正大学大学院)
石井雄隆 (早稲田大学大学院)
東 芳一 (東京農工大学大学院)
前多香織 (鳴門教育大学大学院)
杉浦 悟 (大阪大学大学院)
高橋篤生 (大阪大学大学院)
近藤健太 (明星大学大学院)
大田康江 (順天堂大学大学院)
朝日翔太 (岐阜大学大学院)

◎学会日誌

2016年

- ・2016年06月18日(土)
第32回通常総会
(大阪マーチャングイズ・マート)
- ・2016年06月18日(土)
シンポジウム「アジアと連携する教育工学研究」
「世界・アジアをつなぐ ICT 教育の実践」
(大阪マーチャングイズ・マート)
- ・2016年07月02日(土)
研究会「教育の情報化」(鳴門教育大学)
- ・2016年08月27日(土)
夏の合宿研究会「ラーニングコモンズを活用した学びの
デザイン・アクティブラーニングの評価と実践」
(九州工業大学)
- ・2016年09月17日(土)～19日(月・祝)
第32回全国大会(大阪大学)
- ・2016年11月05日(土)
研究会「ICTを活用した学習環境」(宮崎大学)
- ・2016年12月17日(土)
研究会「インストラクショナルデザイン」
(仁愛女子短期大学)

2017年

- ・2017年03月04日(土)
研究会「協働的な学びづくり」(信州大学)

◎国際会議の案内

2016年

- ・EdMedia 2016
<http://www.aace.org/conf/edmedia/>
(6/27 - 30, Vancouver, Canada)
- ・EDM 2016
<http://www.educationaldatamining.org/EDM2016/>
(6/29 - 7/2, Raleigh, NC, USA)
- ・HCI International 2016
<http://2016.hci.international/>
(7/17 - 22, Toronto, Canada)
- ・ETWC
<http://seminars.unj.ac.id/etwc/>
(7/31 - 8/3, Bali, Indonesia)
- ・ICoME 2016
<http://icome2016.iwd.jp/>
(8/18 - 20, Kyoto, Japan)
- ・AECT INTERNATIONAL CONVENTION
<http://aect.site-ym.com/?futureevents>
(10/17 - 21, Las Vegas, USA)
- ・E-Learn 2016
<http://www.aace.org/conf/elearn/>
(11/14 - 16, Washington, DC, USA)
- ・ICCE 2016
<http://www.et.iitb.ac.in/icce2016/>
(11/28 - 12/2, Bombay, India)

お問い合わせ先 E-mail

- 論文投稿に関するお問い合わせ
編集委員会 editor@jset.gr.jp
- 研究会の開催についてのお問い合わせ
研究会事務局 study-group-core@jset.gr.jp
- 全国大会の開催についてのお問い合わせ
大会企画委員会 taikai2016@jset.gr.jp
- 合宿研究会やシンポジウムの開催について
のお問い合わせ
企画委員会 kikaku@jset.gr.jp
- ニュースレター編集に関するお問い合わせ
広報委員会 kouhou@jset.gr.jp
- その他のお問い合わせ
学会事務局 office@jset.gr.jp

広報委員会

担当副会長 : 中山 実(東京工業大学)
広報委員長 : 堀田 龍也(東北大学)
広報副委員長 : 山内 祐平(東京大学)
幹事 : 高橋 純(東京学芸大学)
委員 : 池尻 良平(東京大学)
石塚 丈晴(福岡工業大学短期大学部)
富永 敦子(公立はこだて未来大学)
脇本 健弘(横浜国立大学)

E-mail : kouhou@jset.gr.jp

発行所●

日本教育工学会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル8階

TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
E-mail : office@jset.gr.jp
<http://www.jset.gr.jp>
郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニュースレター
No. 214
2016年5月27日

発行人●会長 山西 潤一(富山大学)